閉会あいさつ

広島大学大学院社会科学研究科
研究科長　川﨑　信文

本日の研究会が無事終わりましたことをまずはお喜び申しあげます。午前中には所用があったため、私は午後から参加いたしました。午後の部で、中国・四国のシンクタンクの方々による多様で熱心なご報告をお伺いして、非常に心強く思いました。

といいますのも、1998年度から2001年度にかけて、広島大学地域経済システム研究センターが中心となって「大学の社会貢献に関する調査研究」（科学研究費補助金研究）を実施しました。私は、研究メンバーの一人として韓国の３都市の大学を訪問し、大学の取り組みについてお話をお伺いしました。そのときに印象的であったのは、「韓国の主要大学には研究センターのようなものは附設されているが、研究の前提となる“地方経済”に該当するものはない」という説明でした。

韓国の地方には、もちろん企業や工場はあります。「地方経済がない」というのは、たとえば韓国には電力会社が１社しかないことや地理的な条件が関係して、そのように感じられるということのようです。一方、今日の研究集会のように地域経済研究が活発であるということは、日本の豊かさの一つの現れであるように思いました。

広島大学も共催機関の一つとして、そのような地域経済研究に参加させていただいておりますことは、非常に喜ばしいことだと思います。これまで大学では「地域貢献」という表現を使っておりました。けれども、そういうおこがましい表現はもはや適切ではありません。最近では「地域連携」という表現を使って、大学と地域との関係をさらに推し進めようとしております。大学から地域に出て行くだけでなく、大学の側でもさまざまな場において地域の方々に助けていただいているところです。

特に社会科学というのは、地域に密接にかかわりのある研究分野です。私たちもそのつもりで取り組んでおりますので、今後ともご支援いただくとともに、私たちができることであれば、いつでも遠慮なくお申し付けいただきますようお願いいたします。

この研究集会は来年、記念すべき第20回にあたります。来年度の研究集会が本年度以上に盛況になることを祈念いたしまして、私の閉会のごあいさつとさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。